



ヘビースモーカーの
貴方。

レントゲンだけで
安心していませんか？

40歳以上の方は全員、肺がん検診の対象者です。

肺がんは、他の病気と区別がつくような特徴のある症状がほとんどありません。特に初期段階では無症状の場合が多く、身体に異変を感じた場合には進行が進んでいたり、発見した時にはすでに末期だった、というケースも少なくありません。男女ともに40歳以降は注意が必要となります。

タバコとの関係は比較的薄い「末梢型(肺野型)肺がん」を見つけるには、「胸部X線検査」が有効です。

さらに

ヘビースモーカー・高危険群の方は
「喀痰細胞診検査」を追加受診する必要があります！
何故なら、肺がんの発見が約3割アップし、その多くは「早期がん」だからです。

ヘビースモーカー・高危険群の方とは…

50歳以上で、喫煙指数(1日に吸うタバコの平均本数×喫煙年数*)が600以上だった方
(過去における喫煙者を含む)

*例) 20本/日×30年間

タバコとの関係が深い「中心型(肺門型)肺がん」を見つけるには、「喀痰細胞診検査」が有効です。

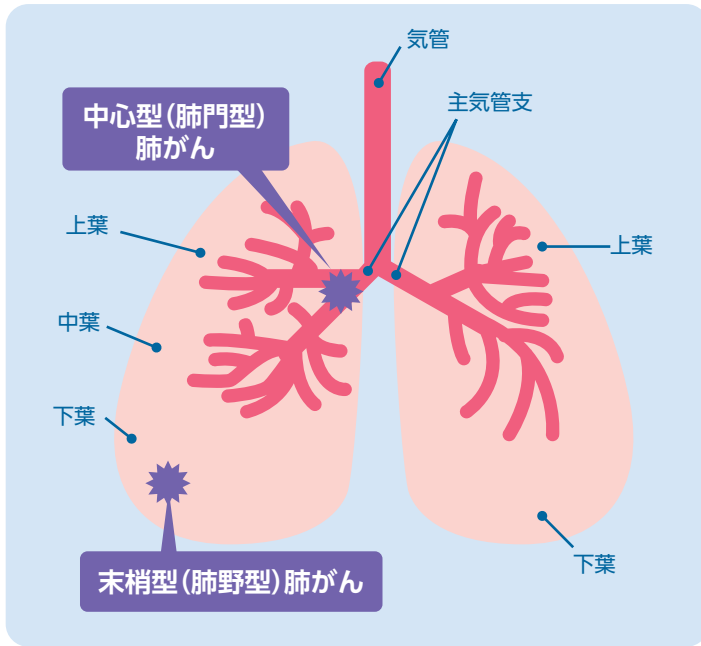
禁煙後などで喀痰が出ない方でも、喫煙指数600以上の場合、必ず受検されるようお勧めします。

検査は喀痰を集める簡単なものです。多くの人は痰を知らずに飲み込んでいます。喀痰の容器をいつもポケット等に入れておき、朝でる痰のみならず、食後でも寝る前でも、痰のようなものが出たときは、すべて入れてください。それで十分です。

※喫煙指数600未満の方は、喀痰細胞診で「がん」が発見されることはほとんどありませんので、受診対象となりません。

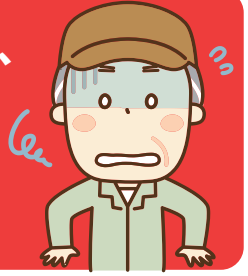
宮城県肺がん対策協議会

ヘビースモーカーが喀痰細胞診を受けなければならない理由



喀痰細胞診(痰の細胞検査)は、ヘビースモーカーのみに発生する肺内部(太い気管支)のがん細胞や前がん状態の細胞を探し出します。

このタイプのがんは、
たばこを止めても
10年以上発生し
続けます。



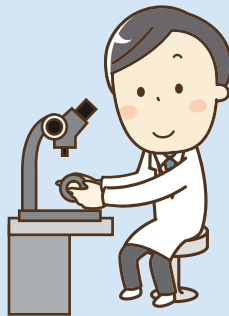
「喀痰細胞診検査」と「胸部X線検査」の違い

「喀痰細胞診」と「X線検査」は肺がん検診において、お互いを補い合う関係となっております。
両検査が適切に行われる場合のみ、死角のない優れた肺がん検診といえます。

喀痰細胞診検査

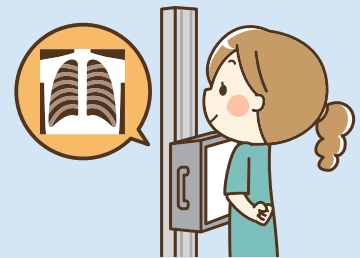
太い気管支に発生する早期肺がんを発見するために役立っています。太い気管支にできるがんは**扁平上皮がん**が大部分を占めています。この種類のがんでは、
喀痰(吐き出した痰)の細胞診検査でがんがあることを検出することができます。

しかし**太い気管支はレントゲン写真では心臓や太い血管などと重なる部分であり、早期の段階にX線検査で検出することはできません。**



胸部X線検査

主として肺の末梢(表面に近い場所)の早期肺がんを、発見する為に役立っています。
末梢の肺がんの種類としては**腺がん**が大部分を占めています
が、早期の段階で太い気管支のなかにがん細胞がこぼれることはありません。



タバコは「がん」以外にも、肺を破壊して息切れを発生させるCOPDや、心筋梗塞・脳梗塞・糖尿病の原因にもなります。

今吸っている方は、ぜひ禁煙を考えましょう!